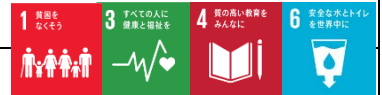


事業名 養護施設運営【ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)】



事業分類 被災地・紛争地における自立・復興支援

NCCCの目的 : 孤児、あるいは孤児に準ずる子ども(両親や親戚が養育できない状態に陥った子ども)が安心して生活できる環境で養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

場所: シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村

子どもの数: 16名 (2018年3月31日現在)

1人の子どもがNCCCを卒業

本年度は1名が残念ながら中学の卒業試験に不合格となり、本施設を卒業せざるを得なかった。現在は長らく音信不通であった母親と生活を共にし、母親と同じ食堂で働いている。この母子の生活が安定することを願っている。



校外教育

・**日本語教育**: チェイ小のHG日本語教室に、小学生が週5日(月～金)参加している。またNCCCの小学校高学年と中学生は週4日(月～木)NCCC内の日本語教室で学んでいる。さらに高校生2名は、シェムリアップ事務所で実施しているBBU日本語講座分室で大学生と共に日本語を学んでいる。現在日本語能力資格試験に向けて勉強中である。



アプサラダンス

・**アプサラダンス**(クメール伝統舞踊): カンボジアの伝統に触れるため、毎週日曜日の午前中に2時間習っており、センター訪問者に踊りを披露している。

・**絵画教室**: 昨年同様、月2回(隔週の土曜日午後)、「小さな美術スクール」(主宰者・笠原知子先生)で、絵画教室(油絵やアクリル絵)に参加。今年も、ウォーキングイベントのTシャツのデザインは子ども達の絵を採用した。

歯科検診と歯磨きの習慣

引き続き本年度も12月に、TAO(東洋医学研究会)の歯科医の先生方に、歯科検診と虫歯予防教育を実施していただいた。3年前から始まったこの活動により、子ども達には毎日の歯磨きの習慣が付き始め、虫歯が減ってきている。



歯科検診

畑での野菜の収穫

今年も、スタッフのタイリーが中心となって畑作を行い、少ないながらも野菜が収穫できた(空芯菜、大根など)。子ども達は畑仕事を手伝うことで農作業の大変さや収穫の喜びを学んでいる。

日本との交流 (年間 25 組を受け入れ)

今年も神戸学院大学の学生達が夏休みに来訪、ミニ運動会を開催してさまざまな競技を教えてくれたり、たこ焼きと一緒に作ったりして大いに盛り上がった。岡山学芸館高校・清秀中学校は、今年も継続して来訪され、ボランティア活動(支援してくれた浄水器の整備や野菜栽培)に汗を流した。学芸館SGHチームは子ども達と交流後、チェイ村で聞き取りをした。岡山の第3藤田小学校とのスカイプを使った交流では、お互いに顔を見ながら声を聴きながらの交流を継続することで、子ども達は、行ったことのない日本の生活や学校について想像力を膨らませた。また、ハート・ペアレント(里親)さん7名がHGスタディツアーに参加して、子ども達と楽しいひと時を過ごした。

インターン受け入れ

2017年4月から2018年1月までの10か月間、広島大学の学生1名がインターンとしてシェムリアップの活動(NCCC&日本語教育)に参加した。



スカイプで日本の学校と交流

新しい10年に向けて

本年度後半は新しい10年に向けて、将来子供たちが一般社会において自立生活ができるよう社会勉強を取り入れた指導に着手した。その第一歩として1月に職業教育を実施(先輩の話、職業訓練所職員の話等)、3月下旬に歴史教育を兼ねた園外活動として世界遺産であるプリアヴィヒアを訪れた。今後は、市場での買い物経験、職業訓練所訪問等、活動範囲を広げていく予定である。

支援・協力団体

ハート・ペアレント、スタディツアー参加者、TAO(東洋医学研究会)、高野山真言宗南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山学芸館SGH・清秀中学校、協力小・中・高・大学、(株)翌檜、(有)キャッチボールカモンR、(株)MUGEN、きずなの会有志一同、日本空港ビルディング、アリモリカップマラソン、(株)パンネーションズコンサルティング